

前提と含意における敬語の分析

—語用論からの—考察—

エスターメリアナ

0442041

マラナターキリスト教大学

文学部日本語学科

バンドン

2008

序論

普通時には同様の面を有しているが、またその言語を使用する国民を反映する特徴を併せて持っているのである。たとえば、日本には敬語がある。敬語は聞き手や場面を考慮してなされた言葉遣いで待遇表現という。敬語は尊敬語、謙譲語、丁寧語の三種類に分けられている。

尊敬語は話題の人、その自身の行為・性質および外人にたいするもの、その人に対する行為などに関して、話し手の敬意を含ませた表現。

(広辞苑 1991 : 140) 例文 :

先生は教室にいらっしゃいます。

「いらっしゃる」は尊敬語の類である。普通形は「いる」である。主語を高めている。次は特別の尊敬語である :

辞書形	読み方	尊敬語	読み方
行く	<i>iku</i>	いらっしゃる	<i>irassharu</i>
来る	<i>kuru</i>	いらっしゃる	<i>irassharu</i>
いる	<i>iru</i>	いらっしゃる	<i>irassharu</i>
食べる	<i>taberu</i>	召し上がる	<i>meshi agaru</i>
飲む	<i>nomu</i>	召し上がる	<i>meshi agaru</i>
言う	<i>iu</i>	おっしゃる	<i>ossharu</i>
知っている	<i>shitte iru</i>	ご存知	<i>gozonji</i>
見る	<i>miru</i>	ご覧になる	<i>goran ni naru</i>
する	<i>suru</i>	なさる	<i>nasaru</i>
くれる	<i>kureru</i>	くださる	<i>kudasaru</i>

謙譲語は話し手（書き手）が、自身および自身の側の物や動作をほかに対する卑下謙譲を含ませて表現する語。「見る」を「拝見」、「行

く」「参る」、「言う」を「申し上げる」という類。次の言葉は特別の謙讓語である：

辞書形	読み方	謙讓語	読み方
行く	<i>iku</i>	参る	<i>mairu</i>
来る	<i>kuru</i>	参る	<i>mairu</i>
いる	<i>iru</i>	おりる	<i>oriru</i>
食べる	<i>taberu</i>	いただく	<i>itadaku</i>
飲む	<i>nomu</i>	いただく	<i>itadaku</i>
もらう	<i>morau</i>	いただく	<i>itadaku</i>
見る	<i>miru</i>	拝見する	<i>haiken suru</i>
知っている	<i>shitte iru</i>	ぞんじておる	<i>gozonji</i>
知らない	<i>shiranai</i>	ぞんじない	<i>zonjinai</i>
言う	<i>iu</i>	申す	<i>mousu</i>
する	<i>suru</i>	いたす	<i>itasu</i>
聞く	<i>kiku</i>	うかがう	<i>ukagau</i>
会う	<i>au</i>	お目にかかる	<i>ome ni kakaru</i>

丁寧語は相手に対する話し手の直接の敬意を表現するものの「ます」「です」の類。「野村 1992 : 210」

筆者は敬語の用法を語用論の立場から研究分析を試みる。語用論はに場面・加わった発話から判断される言外の意味を研究するものである。但し、言外の意味といっても、それを、話し手の意図であるとするものと聞き手の解釈であるとするものと両者の相互行為により生ずるものとする。次の例文を見比べてみよう。

部長：このへやは窓が閉めきられていてね。
部下：すぐに窓を開けます。

その文には部長が部下にまどを開けるように言う。部長がはっきり言わないが、部下は部長の言う意図がわかる。したがって部下はまどを開

けることになる。以上の理由に基づいて、本論文では敬語の用法には含意と前提がどのような役割を果たしているか、また敬語の用法を左右する要素にはどのようなものがあるか分析してみる。

本論

会話には話し手と聞き手その相好理解が必要である。

例文：

- (33) 井上：先生はよくゴルフにいらっしゃると聞きましたが、
齊藤：いや、練習場で打つだけですよ。ところで、村瀬先生、
きのうのテレビをご覧になりましたか。
村瀬：うん、見たよ。すごい試合だったね。天気が悪い大変
だよ。

上の例文には「行く」の尊敬語「いらっしゃるで」と「見る」の尊敬語「ご覧になるがある。前提としては村瀬先生が齊藤さんの話しているのテレビの番組がゴルフの番組である。ことを理解していることである。含意としては村瀬先生も齊藤さんもゴルフのことが好きことである。

- (3) ひかり：電池切れになっております。また動かすには新しい

電池を入れます。

上の例文に「なっている」がある。これは謙譲語の類である。含意として、光は体くたびれたことを電池切られたと例えと言う。新しい電池を入れるというのは何か食べることを意味するのである。含意としては電池切れになっておりますの中の電池は本物の電池ではなく食べもののことである。

(9) 母親 : ちょっとおつかいに行ってきてくれない?

太郎 : 今、外は大雪ですよ。

上の例文は「だ」の丁寧形の「です」を使っている。「外は大ゆ

き」だと太郎が言った時はそれには「行きたくない」という含意がある。

「外は大雪」だというのは前提で、そのことから母親は太郎が行きたくないということをわかるのである。

結論

上記で行った分析により、会話においては、話しての言おうとする意図を理解するには聞き手の理解が必要である。その意図を理解するには、場目の予備含意を算出前提を見なければならない。

日本語はその社会の構造と深くの関わる言語である。語の選択は会話の場面、話し手が誰であるか、聞き手が誰であるかによって左右される。その社会構造のため敬語というものが生まれてきたのである。

敬語の用法は社会的地位、命令、遠近関係によって左右される。また内と外の概念も大きく影響するのである。